

▼ドラマミン錠 [内]

【重要度】 【一般製剤名】ジメンヒドリナート (U) Dimenhydrinate 【分類】鎮暈・鎮吐剤

【単位】▼50mg/錠

【常用量】1回50mg, 1日3~4回 [最大200mg/日]

【用法】1日3~4回 ■予防のためにはその30分~1時間前に1回50~100mg

【透析患者への投与方法】透析患者の投与方法に言及した文献ないがおそらく減量の必要なし (5)

【その他の報告】投与間隔をやや延長 (12)

【PD】投与間隔をやや延長 (12)

【CRRT】投与間隔をやや延長 (12)

【保存期CKD患者への投与方法】腎不全患者の投与方法に言及した文献ないがおそらく減量の必要なし (5)

【その他の報告】投与間隔をやや延長 (12)

【特徴】鎮吐、抗乗り物酔いおよび抗めまい作用の機序は完全には解明されていないが、中枢性抗ムスカリン作用が関係しているといわれる。すなわち前庭刺激を減少させ迷路機能を抑制する。髄質のCTZにおける作用もまた鎮吐効果に関連しているものと思われる。急性期のめまいによる悪心・嘔吐にはBBBを通過する第一世代抗ヒスタミン薬が適用される。構成成分にテオフィリン系物質が含まれる。

【主な副作用・毒性】眠気、頭痛、手足のしびれ、手指振戦、めまい、目のかすみ、知覚異常、口渇、胸やけなど

【吸収】良好 (U) 経口より舌下投与はCmaxがやや低い (Scavone JM, et al: Biopharm Drug Dispos 1990 PMID: 2328304)

【F】69% (Scavone JM, et al: Biopharm Drug Dispos 1990 PMID: 2328304)

【tmax】約1~2hr (Drug Res 33: 1674,1983) 2.3hr (Scavone JM, et al: Biopharm Drug Dispos 1990 PMID: 2328304)

【代謝】肝 (いくらかは腎) のCYPで代謝 (U)

【排泄】腎で代謝物として24時間以内に排泄 (U) 尿中未変化体排泄率: 不明 (12)

【CL】9.0mL/min/kg [チュアブル] (Valoti M, et al: Methods Find Exp Clin Pharmacol 2003 PMID:12851661)

【t1/2】4~7hr (12) 【腎不全患者のt1/2】不明 (12)

【蛋白結合率】98% (12)

【Vd】不明 (12)

【MW】469.96

【透析性】蛋白結合率が高いため、除去されにくいと思われる (5)

【TDMのポイント】TDMの対象にならない

【相互作用】MAO阻害剤と併用禁忌 (1) 中枢神経抑制剤での鎮静作用の増強 (1) アミノグリコシド系抗生物質の耳毒性の不顕化の可能性 (1)

【効果発現時間】30min以内 (U. S. Armed Forces. Med. J. F: 570, 1950)

【効果持続時間】3~6hr (U)、約4~8hr (耳鼻咽喉科 24: 388, 1952)

【更新日】20230105

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。